

**慶應義塾大学日吉キャンパス特色 GP**  
**「文系学生への実験を重視した自然科学教育」第 1 回シンポジウム**  
**～今どんな教育が行われているのか～**

開催趣旨：

慶應義塾大学日吉キャンパスでは、その規模と陣容において一つの理学部に匹敵する組織が、文系学部にも横断的に所属し、文系 4 学部（文・経済・法・商）の学生を対象とする実験重視の自然科学教育に取り組んでいる。この取組は、1949 年の新制大学移行時に、文系学生に対する「実験を含む自然科学科目」を設置したときに始まる。以来 50 数年にわたって、この教育への取組を精力的に継続し、現在文系 4 学部の 4000 名を超える全ての学生が自然科学科目を履修し、そのうち実に 2800 名（約 7 割）が「実験を含む科目」を選択する実験重視の教育を実践している。「自然科学の真髄」は社会や人間の意識改革につながるという認識、したがって自然科学の知見が文系学生にとって大きな意義を有するという認識に基づいて、自然科学の成果の意味を理解しその思考法を体得した文系学生を世に送り出すことが目標である。

本取組は、2002 年からは慶應義塾「総合改革プラン」における「感動教育実践」の目標に向けて位置づけられており、文系学生への自然科学の「副専攻認定制度」をも視野に置いている。そして 2005 年、慶應義塾大学日吉キャンパス「文系学生への実験を重視した自然科学教育」として、文部科学省が主催する平成 17 年度「特色ある大学教育支援プログラム」（特色 GP）に採択された。

本シンポジウムは、この特色 GP における第 1 事業「文系専門課程学生に対する自然科学教育の在り方の検討」が主催する第 1 回シンポジウムである。開催趣旨は、慶應義塾大学におけるこれまでの実験を重視した文系自然科学教育を概観し、そして塾内文系専門課程学生に対する自然科学教育の現状を把握することによって、それらに関する様々な議論の礎を築くことである。参加者間の活発な意見交換が期待されている。